

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2013年9月）

目次

内政

- ◆政府、SPP全株式の購入を決定 2
- ◆政府によるSPP株購入を巡る疑惑 2
- ◆フィツォ首相に対する不信任案の否決 2
- ◆ヤフナーテク農業・農村問題相による農業省幹部の縁故採用問題 3

外交

- ◆イラン当局に拘束されていたスロバキア人の一部解放 3
- ◆ライチャーク外相の次期国連事務総長選挙立候補の可能性 4
- ◆ギリシャ大統領のスロバキア訪問 4
- ◆張・中国全人代常務委員会委員長のスロバキア訪問 5
- ◆独連邦議会選挙の結果に関するフィツォ首相のコメント 5

社会

- ◆プレショウ地裁、サディキ被告に対する過去の実刑判決を破棄 5
- ◆サッカー国内リーグで八百長疑惑 6
- ◆ブラチスラバで性的少数者支援パレード 6
- ◆ロマ人の人口調査 6

経済

- ◆国内企業の収益ランキング 7
- ◆プジョー・トゥルナバ工場、計2週間の操業停止 7
- ◆スロバキアにおける付加価値税未納率は欧州でトップクラス 8
- ◆今年の税收、当初予測を上回る見込み 8
- ◆家庭消費の増大傾向 9
- ◆主要経済指標：2013年8月 9

内政

◆政府、SPP 全株式の購入を決定（5日付各紙）

4日、政府は国内最大のガス供給企業 SPP の全株式を購入する決定を行った。現在、SPP 株の 51% を政府が、残りの 49% をチェコのエネルギー企業 EPH が保有している。フィツォ政権は、EPH から全株式を購入し、SPP の経営権を完全に取得することで、ガス販売価格を統制する狙いがあると説明している。

政府は SPP 全株式の取得により、SPP 本体の経営権と共に、同社の抱える赤字総額約 1 億 2 0 0 0 万ユーロを全て引き受けることになる。一方の EPH 側は、SPP の子会社である Eustream（ガス移送部門）と SPP Distributer（ガス供給インフラの管理運営部門）の経営権保持を、株式売却の条件としている。この 2 つの子会社は、赤字を抱える SPP 本体とは対照的に年間 3 億ユーロ程度の高収益を生み出している。すなわち EPH は、株式売却により赤字部門を切り捨て、黒字部門を手元に残すというメリットを得ることになる。

◆政府による SPP 株購入を巡る疑惑（12日付、13日付各紙）

野党「新たな多数派」のダニエル・リップシツ議員は、政府が EPH からの SPP 株購入を決定する決め手となった資料について、売り手である EPH の有力株主のひとつであるスロバキアの投資グループ J&T によって作成されたものであると主張している。同議員はその証拠として、資料ファイルに J&T の電子認証が付されている事実を明らかにし、マラティンスキー経済相の更迭と SPP 株売買の中止を要求した。経済相はリップシツ議員の主張を否定し、資料はかつて J&T で働いていた SPP の社員から送られてきたもので、その社員は J&T に勤務当時に使用していたノートパソコンを用いて資料を作成したため、J&T の電子認証が付されたと説明した。しかしその後、経済相は当初の説明を翻し、経済省内で作成された資料が最終的な内容チェックのために SPP 側に回された過程で、J&T の電子認証が付されたともものとした。一方で経済相は、J&T が資料作成に関与していない証拠を提出する時期については明らかにしなかった。野党は、疑惑発生の責任をフィツォ首相に求め、首相の辞任と内閣総辞職を求める不信任案提出の準備を開始した。

◆フィツォ首相に対する不信任案の否決（20日付各紙）

19日、SPP 株購入疑惑に関連して野党により提出されたフィツォ首相の不信任は、賛成 59：反対 82 で否決された。与党 Smer-SD の全議員が、反対票を投じた。不

任を巡る議論の過程では、フィツォ首相がリプシツ議員の批判演説に激高して議場から退出したり（17日）、野党「普通の人々」のマトヴィチ議員が用意して議場に据えたフィツォ首相の等身大の人形を、Smer-SD の議員が撤去しようとしてもみ合いになる（19日）など、混乱した場面が見られた。政府は、野党が要求する SPP 株購入の中止に応じるつもりはなく、年末には株式売買の実施が予定されている。

◆ヤフナーテク農業・農村開発相による農業省幹部の縁故採用問題（25日付「スメ」）

ヤフナーテク農相の出身地であるニトラ近郊の村コムヤティツェ（人口約4000人）からは、複数名が農業・農村開発省の幹部として採用されている。彼らが現在のポストを得たのは、ヤフナーテク氏が農相に就任して以後のことである。農相の縁故により採用されたと思われる職員には、本人の甥や姪等の血縁者に加え、地縁者（コムヤティツェの出身者）も含まれる。また、農相が代父（洗礼の際の形式上の父親）を務めた人物が、夏期限定の臨時職員として雇われた例もあった。農業省は「スメ」紙の取材に対し、全ての常勤職員は、幹部も含めて、選考を経て採用されると答えた。ただし、応募者が何名いたのか、また採用選考の実施を一般向けに通知したのかどうかについては、回答を避けた。

外交

◆イラン当局に拘束されていたスロバキア人の一部解放

（1日付首相府プレスリリース）

1日、フィツォ首相及びライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は共同記者会見を行い、本年5月にイラン当局に身柄を拘束されたパラグライダー愛好家のスロバキア人8名のうち6名が解放され、無事帰国した事実を公表した。イラン当局に拘束されたスロバキア人8名は、パラグライダーからの空撮の愛好家で、拘束の理由はイランの軍事施設を空撮したスパイ容疑であった。スロバキア外務・欧州問題省は、6月28日に拘束の事実を公表、イラン政府側と解放を巡る交渉に入ったことを明らかにしていた。1日に外務・欧州問題省において開かれた記者会見には、フィツォ首相、ライチャーク外相及びイラン当局から解放された6名のスロバキア人が出席し、解放の事実を報告した。未解放の2名については、イラン当局が取り調べのためになおも拘留している。

◆ライチャーク外相の次期国連事務総長選挙立候補の可能性（6日付「スメ」）

2016年秋に予定されている次期国連事務総長選挙の候補者について、すでに様々な噂が飛び交っている。「スメ」紙の情報源によれば、ライチャーク外相もまた、次期国連事務総長のポストへの野心を、他国の外交官やスロバキアの政治家に対して、非公式に繰り返し語っているという。在スロバキア米国大使館は、既に夏前に、国連事務総長選挙に対するライチャーク外相の関心を米務省に公式に伝達していた。ライチャーク外相は、立候補への意欲を公式には否定していないものの、外相の報道官は、ライチャーク氏はフィツォ政権の外相としての任務を2016年4月の任期まで全うする意向であり、次期国連事務総長選挙について話題にするのは時期尚早である旨述べた。

スロバキア人の国連事務総長候補者としては、ライチャーク外相の他にも、現在国連アフガニスタン支援ミッションの代表を務めるヤーン・クビシュ元外相の名が挙げられている。東欧から国連事務総長が選出される可能性については、World Politics Review 誌のアナリスト Richard Gowan 氏が今年4月に書いた記事において指摘された。同記事においては、東欧出身の候補者としてライチャーク氏、クビシュ氏の他、ユネスコ事務局長のイリナ・ボコヴァ氏（ブルガリア出身）、ダニロ・テュルク氏（前スロベニア大統領）の名が挙げられた。

◆ギリシャ大統領のスロバキア訪問

16日、スロバキアを公式訪問中のパプーリアス・ギリシャ大統領がガシュパロヴィチ大統領と会談を行った。会談の主要なテーマは、欧州及び両国の経済情勢であった。ガシュパロヴィチ大統領は、ギリシャ政府及び国民が経済危機克服のために払った多大な犠牲と改革の努力に敬意を表しつつ、スロバキア政府は引き続きギリシャを支援していく意図があり、それを自国民に説明していく旨述べた。

会談においては、ギリシャが来年1月よりEU議長国となることと関連し、当面の外交課題に関する意見交換も行われた。ガシュパロヴィチ大統領は、いわゆるキプロス統合問題の解決に向けて、スロバキアが積極的に関与していく用意のある旨述べた。またコソボ問題については、スロバキアは同様コソボの独立を承認していない点でギリシャと立場を同じくしており、これに変更は無いが、しかしコソボの対EU政策は支持していく旨述べた。

◆張・中国全人代常務委員会委員長のスロバキア訪問

20日、張徳江・中国全人代常務委員会委員長がスロバキアを訪問し、ガシュパロヴィチ大統領と会談を行った。ガシュパロヴィチ大統領は、張委員長との会談において、スロバキア・中国関係は非常に良好であり今後もそうあり続けるとの確信を表明、今次訪問が政治的対話のみならず、経済協力や両国の企業間関係の継続についても確認するものである旨述べた。張委員長は大統領に対し、「自分の今次訪欧の最初の訪問先がスロバキアであるということが、中国が両国間関係をいかに重視しているかを示している」と述べた。また同委員長は、両国間の経済協力が継続的に深化している点、多くの中国系電子機器・コンピューター関連企業がスロバキア市場において自身の場所を見出した点、同様にスロバキアに拠点を置く各自動車メーカーもまた、中国への輸出台数を大きく伸ばしている点に言及した。同委員長によれば、中国はスロバキアとの経済・貿易関係強化に関心を抱いており、スロバキアの利点を、欧州における地理的位置及び廉価で水準の高い労働力であるという。張委員長は、中国はスロバキアを含む欧州への投資拡大に大きな関心を抱いていると述べた。

◆独連邦議会選挙の結果に関するフィツォ首相のコメント（24日付「スメ」）

フィツォ首相は、22日に行われた独連邦議会選挙におけるメルケル首相率いる与党 CDU/CSU の勝利を受け、以下のコメントを行った。

- ・ドイツの選挙結果を、党派的観点からではなくスロバキアの観点から評価する。
- ・スロバキアは、欧州の強国であるドイツとフランスの方向を向かざるを得ない。
- ・今回の選挙結果は、欧州における大きな安定と経済成長の前提条件である。

あるスロバキア外務・欧州問題省関係者によれば、メルケル氏は、欧州においては中・東欧の中小国の支持が必要となることをよく知っており、それゆえ彼らの意見に対して常にも「耳を開いて」いる由。ドイツはスロバキアにとって最も重要な貿易相手国であり、両国関係の緊密さは、両国の指導者間の緊密な関係に反映されている。彼らの所属する政党は互いに方向性が異なるが、その点は全く影響していない。

社会

◆プレショウ地裁、サディキ被告に対する過去の実刑判決を破棄

（6、7、10日付各紙）

プレショウ地裁は3日、麻薬密売の罪に問われたアルバニア系マフィアのリーダーバキ・サディキ被告が、国外逃亡中の2011年に同地裁により下された禁固22年

の実刑判決を破棄する決定を行った。サディキ被告は、昨年逃亡先のコソボで身柄を確保され、スロバキアに移送の上収監されていた。判決破棄の理由は、コソボの法務当局からスロバキア側にサディキ被告の身柄が引き渡された際、同人に新たな裁判を受ける権利を保障することが条件付けられていた、というものである。これを受け、サディキ被告に対する裁判は再びやり直されることとなった。ただしスロバキア法務省は、コソボ側からの要請について、被告には裁判のやり直しを要求する権利がある旨言及されているのみであり、必ずしも過去の判決の無効を意味する内容ではないとして、プレショウ地裁の解釈を否定している。なおサディキ被告はハラビン最高裁長官の友人であり、両者との間には不透明な関係があると度々報じられているが、ハラビン長官は今回の地裁決定への関与を否定している。

◆サッカー国内リーグで八百長疑惑（13日付各紙）

スロバキアの国内サッカーリーグであるツオルゴン・リーグで、八百長疑惑が生じた。DAC ドゥナイスカー・ストレダに所属する4名の選手が、アジアのエージェントを介した違法な賭博に関わり、自分のチームの成績が共犯者に有利な結果となるように仕組んだ疑いがもたれている。選手はそれぞれ、2000から6000ユーロの謝礼を受け取っていたとされる。警察によれば、今回の八百長を手引きしたのは既に引退した数名の元選手であり、他のチームにも疑惑が及ぶ可能性が高いという。

◆ブラチスラバで性的少数者支援パレード（23日付各紙）

22日、ブラチスラバで性的少数者（LGBTI）の権利擁護のためのパレード（プライド・パレード）が実施され、数百名が参加した。同性婚の実現を目標に掲げたパレードは、極右グループによる妨害等もなく、無事に終了した。パレードには、与野党から数名の国会議員、政府からポラク・ロマ問題全権が支援表明のために参加した。一方、同日コシツェにおいて、伝統的な家族道徳の擁護を掲げるデモンストレーションがスロバキア司教会議等キリスト教団体の主導により実施され、国内外から約7万人の参加者を集めた。同イベントには、来年実施される大統領選挙の候補者数名（チャルノグルスキー、フルショウスキー、キスカ、オススキーの各氏）も参加した。

◆ロマ人の人口調査（26日付「スメ」）

国連の調査機関と労働・社会・家族問題省が共同で実施した調査によれば、スロバキアに居住するロマ人の人口は約40万人、国民人口に占める割合は7.5%であり、

2004年の調査結果（33万人）よりも大幅に増加している判明した。ただし、これはロマ人口の増加によるものではなく、より正確な調査方法を採用した結果であるという。すなわち、以前の調査では人口50名以下のロマ人集落は調査の対象外としていたが、今回はその基準を30名以下とした。県別では、最もロマ人口が多いのは Banska Bystrica 県で、全体の25%を占める。その次に Kosice 県（24%）、Prešov 県（23%）が続く。これらの3県に、スロバキアのロマ人の72%が居住していることになる。

経済

◆国内企業の収益ランキング（3日付「経済新聞」）

会計監査企業 Deloitte 社は、中東欧企業の昨年の収益ランキングを公表した。それによれば、スロバキア国内企業のトップはフォルクスワーゲン・スロバキアで、年間収益は約66億ユーロであった。中東欧全体でのベスト3は PKN Orlen（ポーランド、石油精製、287億ユーロ）、MOL（ハンガリー、エネルギー、192億ユーロ）、シュコダ自動車（チェコ、自動車、105億ユーロ）。フォルクスワーゲン・スロバキアは、中東欧全体では14位であった。国内企業の年間収益トップ10（2012年）は以下の通り。

1.	フォルクスワーゲン（自動車）	66億ユーロ
2.	Slovnaft（石油精製）	47億ユーロ
3.	起亜（自動車）	39億ユーロ
4.	サムスン電子（電子機器）	37億ユーロ
5.	スロバキア電力（電力）	35億ユーロ
6.	SPP（ガス）	27億ユーロ
7.	U.S. スチール（製鉄）	24億ユーロ
8.	PSA プジョー・シトロエン（自動車）	19億ユーロ
9.	テスコ（小売）	14億ユーロ
10.	西スロバキア・エネルギー（配電）	10億ユーロ

◆プジョー・トゥルナバ工場、計2週間の操業停止（18日付「経済新聞」）

PSA プジョー・シトロエンのトゥルナバ工場は、欧州市場における自動車販売低迷のあおりを受けて、9月23日から29日までと10月28日から11月3日までの計2週間、操業を停止する。操業停止の間、同工場に約3000名いる従業員の給与

については、通常の60%が支払われる。

欧州の自動車市場は、今年に入っても非常に厳しい状況が続いている。8月の欧州全体の販売台数は、前年同期比でマイナス5%であり、1990年以来最低であった。スロバキアにおける8月の自動車販売台数は、前年同期比マイナス28.7%の約4000台強にとどまった。これは、EU内ではキプロスのマイナス30%に次ぐ下落幅である。ただしこれには、昨年8月には自動車登録税導入前の「駆け込み需要」があったことも影響している。一方で、ジャガーやメルセデス等の高級車の売上げは好調で、今年の販売数は昨年同時期を上回っている。

◆スロバキアにおける付加価値税未納率は欧州でトップクラス (21日付「スメ」)

欧州委員会の調査によれば、スロバキアにおける2011年の付加価値税未納額は約27億7000万ユーロ、対GDP比は4%であった。付加価値税の未納率(本来支払われるべき付加価値税の総額に占める未納分の比率)は37%で、EU内ではルーマニア、ラトビア、ギリシャに次いで4番目に高い。未納率が最も低かったのはスウェーデンで、わずか2%であった。仮にスロバキア政府が未納率をスウェーデン並みに抑えることが出来たなら、黒字財政の実現さえ可能となる。

付加価値税未納の要因は、意図的な脱税行為だけではない。企業が倒産したり、経営不振により税支払い不能に陥ったりする場合もある。スロバキアにおいても、経済危機の深刻化に伴い付加価値税未納率が上昇する傾向が見られる。フィツォ首相は、財政赤字削減のための優先課題の一つとして、付加価値税の租税回避対策を挙げている。

◆今年の税収、当初予測を上回る見込み

(26日付財務省プレスリリース、27日付各紙)

財務省発表によれば、今年の税収及び保険料収入は、6月時点における予測を1億3200万ユーロ(対GDP比0.2%)上回る見込みである。税収及び保険料収入に関する当初見積もりとの比較では、4億6500万ユーロの増加となっている。カジミール財務相によれば、税収の増加は経済状況の改善と政府による租税回避対策の成功の結果である。とりわけ付加価値税収入は、昨年比で1億2000万ユーロ増加する見込みである。財務省によれば、税収が当初予測を上回った結果、今年の財政赤字をGDP比2.85%程度に抑えることも可能となるという。

◆家庭消費の増大傾向（26日付「プラウダ」）

スロバキアの家庭消費は、今年第2四半期には前年比1.5%のプラスとなり、2009年以来初めて増大傾向にある。ただし、その中心となっているのは食料品をはじめとする短期消費財であり、家庭が出費を抑える風潮はなおも継続している。すなわち、景気改善に伴い収入が増加した場合、人々はまずより多くの肉やサービスを購入するが、洗濯機やガス台は古いものを使い続ける。ただし来年以降、経済成長が2%程度の水準で継続するならば、消費の範囲がより拡大していく可能性は高い。

◆主要経済指標：2013年8月

※出典：Štatistický úrad SR 及び Eurostat。為替レートについては Interbank Rate を使用 (<http://www.oanda.com/>)

消費者物価指数（対前年同月比）

月	総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	2.4	5.9	0.2	0.8
2	2.2	5.6	0.1	0
3	1.9	3.5	1.0	-0.7
4	1.7	4.1	0.4	-1.7
5	1.7	4.4	0.4	-1.6
6	1.6	4.4	0.4	-1
7	1.5	4.3	0.3	-0.2
8	1.3	3.8	0.3	-1.1

失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	14.8	11.9	10.8
2	14.7	12.0	10.9
3	14.7	12.1	10.9
4	14.4	12.2	11.0
5	14.3	12.2	11.0
6	14.3	12.1	10.9

7	14.0	12.1	10.9
8	13.7	12.0	10.9

為替レート

月	1ユーロ/円
1	118.1
2	124.5
3	122.9
4	130.9
5	130.9
6	128.5
7	130.4
8	130.3

外国貿易 (単位:100万ユーロ)

月	輸出	輸入
1	4,857.6	4,482.8
2	5,037.8	4,613.3
3	5,309.5	4,842.6
4	5,642.2	5,076.5
5	5,706.0	5,069.5
6	5,282.2	4,832.7
7	5,010.7	4,839.7
8	4,843.4	4,582.4

鉱工業生産指数 (対前年同月比)

月	鉱工業総合	自動車工業	電子機器工業
1	106.4	115.5	79.1
2	101.0	108.0	96.2
3	100.9	102.3	103.3
4	102.8	105.1	101.9

5	102.8	102.6	92.9
6	102.9	101.2	99.0
7	102.2	95.4	110.2
8	104.4	108.0	98.9

景況感

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	84.9	89.5
2	86.7	91.1
3	91.0	90.1
4	91.3	88.6
5	88.7	89.5
6	84.4	91.3
7	87.8	92.5
8	88.4	95.3